

# 令和7年度 山手中学校 学校評価

## 1 学校教育目標

自ら学びつづけ たくましく生きる ころ豊かで自立した生徒の育成

## 2 指導目標

①わかる授業を展開し、学習習慣の定着を支援する  
 ③相手を理解し、互いに高め合う生徒の育成

②自他の命を大切にする生徒の育成  
 ④感謝の心を持ち社会に奉仕する生徒の育成

## 3 学校自己評価と改善の方策

A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない

努力目標	評価項目	達成状況 (自己評価)	改善の方策
「確かな学力」の育成	基礎・基本の確実な定着	A	○「できる学力」と「わかる学力」を意識した単元計画の見直しを推進する。 ○学習の指導方法を工夫し、個に応じた指導を心掛ける。 ○兵庫型学習システムや複数指導のさらなる有効活用を図る。
	主体的な学習態度の育成	B	○オンライン学習サービスの活用を推進し、個々の習熟度に応じて、必要な教材を自ら 選び学習する習慣の定着を図る。 ○家庭学習の手引きを有効活用する。
	ICTの効果的な活用	B	○生徒が学習場面でchromebookを活用する機会を増やす。 ○探究学習など、自ら考え、教え合い・学び合う活動で積極的に活用する。
開かれた学校づくり	情報発信	A	○HPやデジタル連絡ツールを用いて、情報共有を促進する。
	地域との連携、交流の充実	B	○学校運営協議会と連携し、地域人材等を活用できる体制づくりをより一層推進する。 ○学校園連携ユニットでの相互交流を充実させる。
「豊かな心」の育成	道徳的実践力を養う道徳教育の充実	A	○家庭や地域と連携しながら、規範意識や差別・偏見を許さない心を育成する。
	信頼関係の確立	A	○生活アンケートや教育相談に加え、日常生活の多方面から心身のサポートを行う。 ○MS, SC, SSWとも連携しながら、生徒の状況把握と丁寧な支援を心掛ける。
	お互いを思いやる人権教育の推進	A	○思いやりと尊重の心を育む人権教育を、学校・家庭・地域が一体となって推進する。
	豊かな情操の育成	A	○日常の学習や体験活動を通して、自己有用感の向上に向けた取組を継続する。

## 4 学校関係者評価

努力目標	関係者評価(自己評価の適切さ)	評価・意見(感想)など
「確かな学力」の育成	適切である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果において、生徒・保護者の双方から全体的に良好な評価が示されており、評価すべき点である。</li> <li>・家庭学習の定着が課題となっている家庭もあり、学習がテスト前に偏る傾向が見受けられる。Chromebook等の活用を通じた日常的な学習習慣の形成が求められる。</li> <li>・不登校生徒の増加をはじめとする多様な課題が存在する中で、生徒支援に向けて前向きに取り組む学校の姿勢が評価できる。</li> <li>・学校現場における人的配置の充実が求められる状況であり、地域としても学校に関わり支援していきたい。こうした取組は、今後の教育活動において大きな意義を持つと考えられる。</li> </ul>
開かれた学校づくり	適切である	
「豊かな心」の育成	適切である	